

特 249

114

篇二第・究研の理

275

456

不思想の世

著一如澤櫻

りあいつまづ近に観界杏理原双兼は学科

L'INVISIBLE

始



行249
275

健康の六条件とはこれだ

これだけの条件が食物だけで得られる！

第一條、絶対に疲れない！
夜通し仕事をして！ 又絶対に病氣にならないこと！
近視も白髪も若禿も、肩のコリも、ヒマ霜ヤケも
重篤な病氣のS・O・Sだ！

第二條、御飯がおいしい！
冷飯にお澤庵でもニコニコおいしく頂けること！
第三條、よく眠る！
長く寝ることではない！ 三分間で寝入り、動かず、
夢を見ず、四五時間で起きられ、元氣に働けること！

第四條、物忘れをしない！
絶対に物忘れをしない！ 年と共に記憶力が冴えて、
一萬人位の人の名も樂におぼえる！

第五條、愉快でたまらない！
朝から晩まで、生きてゐることが面白くて、ありがたくて、
何でも愉快でたまらない圓滿な心境！ 蛇でも
悪人でも怖くない！ 畏れと、争ひを知らぬこと！

第六條、滅死毒公、不惜身命！
朝から晩まで人のため世のために
何かしないであらぬ！

この条件を正しい食物で獲得せよ！

三つの心理的條件

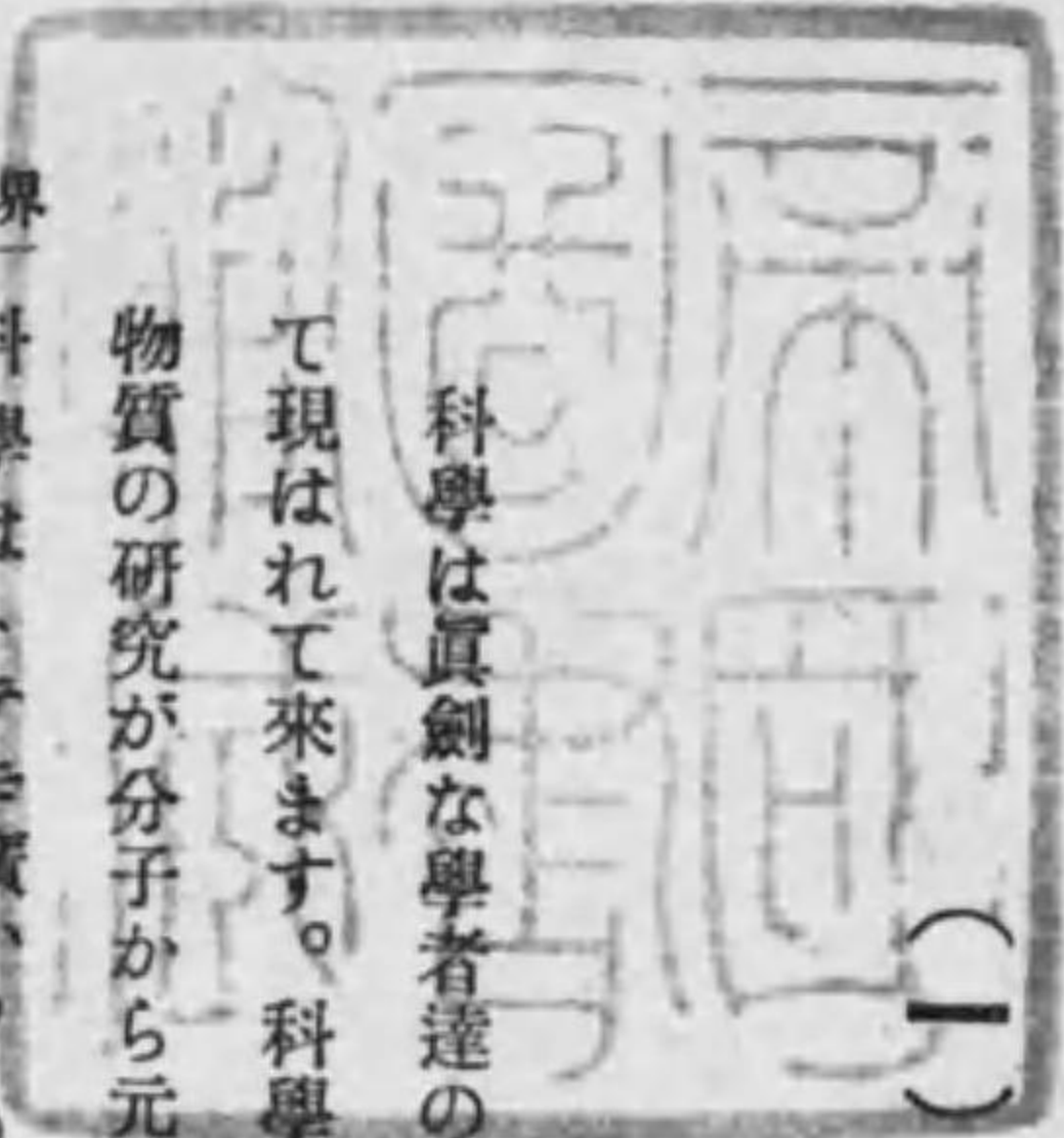
三つの生理的條件

不思議な世界

櫻澤如一

はしがき

このはしがきはあとにして、(二)から
読み始めて下さつてもかまいません。



ふしぎな世界
科學は眞剣な學者達のたえざる努力によつて日に日に進んで、いろ／＼な發明や發見となつて現はれて來ます。科學はもと／＼物質の世界を探るのが目的で始められたのでありますが、物質の研究が分子から元素へ、元素から電子の世界へと研究がすすむにつれ、ふしぎなことに科學はトテモ廣い／＼はかり知れない様な世界へふみこんで了りました。物質は長さ(C)と重さ(G)と、秒(S)ではかることができる筈であつたのですが、なんだかおぼつかなくなつてきました。そこへまた宇宙線と云ふワケのわからないものが出てきました。今科學者は一生懸



命でその本體をつかむことにつとめてゐます。

宇宙線のほかに、エーテルだの、電氣だの、磁氣、エネルギーだのよく分らないものがあるのです。そればかりでなく、宇宙それ自體にしてからが大きなゴム風船の様にグン／＼大きくなつてゆくらしく、その速さがまたナント光の速さ（一秒三〇萬キロメートル七萬五千里）よりも速いらしい、などと云ひ出す學者（エヂントン）も出て来て、いやもう大變なことになつて了ひさうです。

しかし科學には限りがあつて、到底ホントの事は分らない、と云ふことがボツ／＼分りかけて來ました。古くはドイツの生理學者、デュ・ボア・レイモン、近くはプランクなどがその代表者であります。そして量子論の權威プランクは、我々の神經の末端で直接にさぐることに出来る感覺の世界のほかに、もう一つ分らない不思議な世界があるが、これを、間接ではあるが感覺を用ひて完全に理解することも科學の目的である、と云ふ風に云ひ出したのです。

ところが、このプランクの云ふ感覺の世界、五官でさぐることに出来る世界は實は大へん小さなケチな世界で、その神經の末端でさぐりを入れることのできない世界を太平洋の様な海に

たとへると我々の世界はまるで目にも見えないゴミ位な世界なのです。これはもうC、G、Sではかることのできない世界なのです。

こんな廣大無邊な世界はこれまでの科學ではトテモはかることも想像することもできなかつたので、科學の世界ではないとアキラメ、哲學者や形而上學者にゆづつてゐたのですが、プランクは大膽にも、この哲學の世界をも科學で聞いてゆこうと云ふのです。いやモウ大へん勇ましい決心であります。しかし、實はこの感覺の世界でさへ實は分らないことが澤山あるのです。云ひかへると感覺の世界、神經の末端にふれる世界だけでさへ科學は成功してゐないので、それにも拘らず、大學者プランクをしてかく斷言せしめたのは、もう科學が在り來りの科學の世界に立てこもつてゐることが無意味なことであると分つたからであります。そんな決心を早めたのは、宇宙や、量子線やエーテル等の問題と、一方、生命の問題であります。實に克明に感覺の世界はできるだけさぐつて見たのに、まだ分らないものがあとから／＼出てくるのは感覺世界の彼方に、廣大無邊な實在の世界、ふしぎな世界、精神の世界、神の世界があるのであらう、そこから、ボカ／＼、バラ／＼いろ／＼なものが出てくるのだらう、と云ふので、在

來の行きが、りをすて、哲學と對立する様なケチな考へを捨て、精神方面の問題にも眼をそよぎふしぎな生命の問題も考へ、排他的な考へ方を止めなくてはならないと云ふことになつたのであります。つまり科學は明らかに哲學をも併合し始めたのであります。こうなるともう感覺や道具は殆ど何の役にも立たないので、ひたすら目ではなくて眼、即ち心眼、靈感を頼りにしなくてはならないのです。

ところで、無双原理はこの心眼、觀の目、靈感を大きく強くするのが目的であります。(實は科學上のあらゆる發達は實はこの心眼の賜物であります。)この無双原理は、だから科學の指導者であります。私はこれを一生説きつゞけて來たのでありますが、時いまだいたらず、時代は正に科學萬能時代であり誰も耳をかしてくれませんでした。しかし、最近科學の方が行きつづまりを知つて自然に大轉回をはじめたのです。我々の感覺で測ることの出來ない世界——見えない世界——ふしぎな世界のあることをハツキリ認めて來たのであります。こうなるともう我々の世界で、我々は見えない、ふしぎな世界、神の世界、眞理、まことの世界の法則をにぎつてゐるのでありますから、これからは仕事がらくであります。私は東西文化を綜合し、親合

せしめ、さてその上に人類の最高文化を展開せしめる時期がいよいよ近づいたことを感じるものであります。

本書で、私は主としてナチス、ドイツの新進理學者ライスマン氏の小冊子によつて、如何に新しい科學者が「見えないふしぎな世界」の探險にあこがれてゐるか云ふことを示しつゞその「ふしぎな世界」の御案内を少しばかり試みてお見せするのです。こんな本は何冊でもかけますが、今日はこれだけにしてをきまします。

見えない世界、ふしぎな世界とは私共の「まこと」の世界であり、見える世界、感覺で知る世界が「こと」の世界であることや、宇宙線や電氣、磁氣、引力、エーテルなどはみな「見えない」無限絶對神の世界から日も、夜も、百億年の昔も百億年後もさしのべられてゐる無数の陰陽と云ふ手の二つ三つにすぎないことが皆様にはもうお分りのことと思ひます。

—二六〇一・一・三一 夜一時—

この本をお読みの方はぜひ此の叢書の第一篇「宇宙の秩序」を先づおよみ下さい！

(二) 不思議な世界

一、太陽と光線——太陽は地球から一億五千萬軒はなれてゐると云ひます。しかもその光は一秒三十萬軒の速さ(八分間)で飛んで来て我々にあたる。そして太陽の熱度は六千度。我々の生命の根元がこんな大きな陽性の力であることは如何にも力強いことです。これで生命が陽性の現象である事が分ります。然し科學によつてこう教へられても、一向、太陽、光、天照大神に對する我々の絶對的信仰、信頼、感謝、尊敬、歸依、安心等はゆるぎもしないし、附加されるものもない様です。いや少し減殺され、割引された様な氣がします。何だかこう唯物的に數字でハツキリ示されると、いつか消えてなくなるのではないかしら、と云ふ様な氣がしますから……

太陽は光と熱の外に紫外線やその他いろ／＼な見えない光を我々に與へます。人間の皮膚はこの紫外線を熱に變へる力をもつてゐます。これはふしぎなことです。然し紫外線は陰性だし皮膚も陰性だと云ふことが分ればナールホドと分ります。(無双原理の定理第十二)

二、人類の滅亡?——地球が冷たくなれば人類は滅亡するが、それは先づ大して心配するに及ばない、と科學は申します。何千年か何萬年か後のことだからでせう。「然し太陽の紫外線が増大するか、減るかすれば人間は腐つて了ふ。皮膚全體がすぐ甲虫の甲の様に又、うすい透明なクラゲの様にならない限り、人間は死滅する。そんな事はあり得る」と科學は心配してゐます。紫外線より短い波長のレントゲン線を常に扱つてゐる人々が手足を失くしたり、レントゲン室の隣の室にゐる人が早死をしたりする例が澤山あるからでせう。諸君は何とお考へになりますか?それなのに紫外線浴を兒童にすゝめたり、強制したりする國があります。一體何う云ふことでせうか?

三、天の筭と劍——十六七世紀頃、ドイツの浴室には必ず太陽と三日月が衝突し、天柱が折れて墜落し、天の筭と劍が降つてくる地球の滅亡の豫言圖が貼つてあつたと云ふことです。これは長風呂をしてはいけないと云ふころではありますまいか。

四、人は闇を恐れる——ナゼ暗やみを我々は恐れるのでせう。云ふまでもなくこの肉體的生命が光から造られてゐるからです。闇は光を呑むからです。然しその闇から光が生れるのだと

云ふ（神、光あれと曰ひき）世界観が分れば、又、精神は見えない世界であること、見えない世界こそ神の世界であることが分れば、闇を恐れなくなりませう。

五、太陽の殺入力——日光を含む光線は血が酸素を細胞にもたらすのを妨げる、と科學は云ひます。日光の陽が細胞の陽を弱めるからでせう。だから日光の強い土地ほど、又強い季節ほど食物は非常に陰性のものでなくてはならないワケがナールホドと分ります。

六、ソバカス——は特に日光に敏感な人の皮膚を保護するために生じる、と科學が云ふのは少しコツケイです。それでは兎が白いのは獵師に取られるのを保護するためだ、と云ふ様な幼稚な話と同様になります。これは目的論です。如何なる理由によるかを説明せなくてはなりません。これは無双原理世界観の分つた人にはすぐとける問題です。

七、目と光線の關係——強い光にあふと目はシポリ（瞳孔）をしぼつたり、瞼を閉ぢたりして自らを守ります。シポリや瞼は陽性ですから日光の陽性で却つて陰性にノビルのです。（薬物を注射したとき瞳孔がひろくのは、その薬品が陽性でシポリを引きしめるからです。シポリ全體を固く小さくするので、シポリの穴を小さくするのではないのです）。水晶體は眼の中では

最も陽性のものです。陰性の紫外線は網膜の陰性を痛めます。だからその前に陽性の水晶體があつて、その陽性が紫外線の陰性を吸収して了ふのです。こんな巧みな構造はやくもすると、ソバカスや白兎の様な目的論的説明のために用ひられますが、大體、森羅萬象が目的々に造られてゐる様に見えるのは、それが陰陽の秩序をもつてからの自然の結果なのです。これを單純な科學は思ひ間違へるし、哲學まで思ひ違ひをします。

八、放射線の爆撃下——人は赤外線や紫外線レントゲン線の様な人間の目に見ることができない波長の光の猛爆撃に朝から晩まで四六時中、身を晒らしてゐるのです。それがやつとこの頃分つて來たと科學は云ひますが、その種類は科學がいま想像してゐるより遙かに多いでせう。

九、色が見えるワケ——この世界に色と云ふものがなかつたら、ドンナニ我々は淋しい悲しい生活をせなくてはならないでせう。盲人の様に我々は全てのものを手さぐりで探したり見たりするより外はありません。昔からまだこのフシギナ色の秘密を説いた哲學が西洋にはありません。科學も色をエーテルの波動だとか、光素だとか云つてゐますが、その波動や光素、粒子な

なぜ色に見え、こうも面白い色とりどりの世界をつくるのか、いや一體、その波動を起し、粒子を放射する根本原因は何かと云ふことは分らないのです。併し無双原理世界観はこれも説いてくれました。

一〇、色は世界共通のコトバ——「黄」はあたゝかい、「赤」は熱い、と昔から相場が定つてゐます。そしてこれは世界中ドコに行つても通用します。これは色が一つの世界語であることを教へてくれると云ふものです。この世界語を全世界の人々が正しく用ひたら、世の中に誤解と云ふものがなくなるのです。たとへば、すべての色がお互ひに獨立することが出来ないこと、お互に補ひ合ひ、助け合はなくては此の世の中が色盲の世界になり、調和も、楽しさもなくなつて不快な、不安な、不調和なものになつて了ふのです。柳がなければ、花の美しさが分らない様なものです。櫻の色は美しいと云つても世の中は櫻色ひとつにぬりつぶされてごらん下さい。何と云ふ見にくいことになるでせう。ほんとうにそれこそ醜いのです。醜い争ひはすべて相手が見にくく、分りにくいから起るのです。相手を理解することができないから起るのです。だからその罪の半分は自分にあるのです。

たとへばごく陽性な人は、ゴク陰性な人を毛虫の様にきらひます。陽性なシーザーが陰気な人をきらつたのは有名な例です。これは自分が餘り陽性だからなので、自分がもう少し陰性だつたら、ゴク陰性の人と争ふ様なこともなしにすむのです。二つの原色の取り合せが、いかにもドギツク見えるのは争つてゐる時です。ところが人は例外なしに何かの色をもつてゐますから（丁度色目がねをかけてゐる様なものです。赤をかければ赤やピンクは目につきません。青や藍や紫ばかり目につきます）。自分以外の色がドーシテも目につきません。完全な人になると世界にはすべての色がなくてはならないワケが分り、いかに自分に不快な氣分を起させる色でも、おこさせればおこさせるほど自分のカタヨリを教へてくれるのだ、と云ふことが分り、感謝のこゝろさへわいてくるので、争ひを超越します。

たとへば日本精神です。日本精神は大へん調和がとれてゐるので言あげをしないのがホントですけれど、それでも餘りドギツイ赤化精神などを見ると、少し不快になります。それは少し日本精神も三千年ばかりこの島國にたてこもつてゐたので、カタヨリができたからです。日本を大和と云ふのは大きな調和と云ふことです。完全な大和の精神は神の精神です。日本は大

へん調和した精神をもつてゐるので、この七八十年の間に世界中のあらゆる色を取り入れることができました。食べ物、衣服、住居から思想、政治でも教育でも、牛の乳をのむことでも、豚を食ふことでも……およそ三千年來皇國には夢にすら見られなかつた様な風俗習慣制度まで取り入れて平氣で、むしろ喜んでゐます。これほど寛大な國民は日本以外にけつしてありません。私共はこの大きな和の精神を最も正しく活かさなくてはなりません。そしてそれを世界にひろめることが日本人にだけ許されたお仕事であり、それが取りも直さず八紘一字、世界を一家にする事になるのです。

トニカク、世界中どこへ行つても赤は過激、革命、危険を、青は穩和、沈滯、哀愁を意味しますから面白いではありませんか。交通取締りの電燈でも、革命の旗や降参の旗でも、動脈や靜脈でも、太陽や月でも、フミ切番の旗でも……これこそ陰と陽の無双原理が世界に必ず流通するに至る指導原理であることを語つてゐるではありませんか。

インドで淡青い垣をめぐらした家や、青い壁の家は決して虎が入つて來ないと云ひます。虎や猫は陽性の極つたもので、陰性に近くなつてゐるからです。猫の日なたボツコもワケがある

のです。

蛇はゴク陰性です。蠶も蛙も陰性です。餘りに陰性な「動物」なので、人間にきらわれるのです。人間のキラフものは大抵餘りに人間からかけはなれたドギツイ陰性又は陽です。蜘蛛も餘り好かれませんが、これも陰性の強いもの。餘り陽の當る處を好みません。然し陰性の世界で生きて行くためには陽性のものを取らねばなりません。それで肉食をします。陰險な動物だと人間は見ます。それでも陽性の國の陽性の日本人は夜のクモをきらひますが、陰性の國の西洋の陰性の人々は餘り苦しきません。かへつて夜のクモは縁起がよい、日中のクモはエンギが悪いと云ひます。面白いものです。(フランス「夜のクモは希望を、朝のクモは悲しみを、ひるのクモは心配を」、日本「夜のクモは殺せ、朝のクモは縁起がよい」)

緑の牧場、草原、森、山などが人の心を靜かにし、おだやかに、ノンビリさせるのは人間に丁度陰陽中和を得た感じを與へるからです。草食動物や、菜食人種はすべて平和を好むのも中和を得てゐるからです。熱帯にゆくと小さな(陽性)鬮争をする動物(鬮魚の如し)が澤山ゐます。北極や南極の陰性の世界では陽性の鬮争が少い様です。エスキモーやラブランドは平和な純朴な人種であり、南洋やアフリカの陽性の國には激烈な鬮争的人種がゐる様です。世界歴史

を見てもギリシヤやスパルタ、トルコ、ローマやカルタゴなどは血まみれの様です。支那の歴史もすい分戦争がある様ですが、その支那の戦争と云ふのは「話だけは年中あるが、ホントーに見た人は殆どない」とリン、ユ、タンが云つてゐます。それほど陰性の國なのです。日本はそこへゆくとすい分激しい陽性（熱情）をもつてゐます。ヨーロッパ大陸も陰性の土地ですが近代文明の陽性が繁昌しはじめてからは、すい分惨酷な大戦争があります。根が陰性の人々ですから、これに陽性のメツキがかけられると、すい分惨酷なこと陰險なことを敢へてして平気で冷静でゐられるのです。根が陽性な人（陽性の國土の人々）は陰性を長い間取つてゐますから、いかにキツイ處があつても、また一面涙もろい處があり、ものゝあはれを知ると云つた様な處があります。それで日本人の本來の或は理想的の面目は内剛外柔であり、西洋人は外剛内柔で一見すい分横暴で無禮に見えても案外、内心は弱々しいのです。英國人が今、日本人のみならず世界中の人々から狡猾、惨忍、冷酷であるときらはれてゐますが、これはほんとうに英國人を知らないからの誤解です。フランス人は巧言冷色で有名であります、これは英國人よりも外柔内剛であるからです。

一一、盲目の蟻——働きアリの牝は殆どめくらであるが、光の感覺を前足にもつてゐるらしい。これを見ても、光と云ふものが別に目にだけ特殊なものでないことが分ります。

一二、ミ、ズと太陽——みゝすはナメクジと同じく陰性な動物ですがナメクジに比べると陽性であります。ナメクジは上るし、みゝすはもぐります。しかその體重の大部分は水分（陰性）ですから太陽の陽に會ふとすぐ水分を出し吸ひとられ、カラ／＼に乾いて忽ち死んでしまひます。これをもつて見ても、それ／＼の生物が、獨特の生命圏、生存地帯をもつてゐることが分ります。生れてくる以上は、生存地帯をもつてゐるのです。それがあればこそ生れてくること出来るのです。

みゝすは紙にのせて太陽にあてるとすぐ死んで了ふ。八十五％も水分をもつてゐるナメクジはミミズより陰性であるから、同じ様にすると忽ち死んで、消えて了ひあとには何も残りませぬ。赤ン坊も水分が大へん多いですから太陽にあてたり、厚着をさせたりするとわるいのです。人間は近頃太陽の大きな恩恵を忘れて了つた様です。それを畏れることも忘れて了ひ、ガスや電燈の様な人造太陽、代用品を用ひて光を濫用してゐます。雨の少い、光の多いエジプト

の様な陽性の強い國に参りますと、光をさへぎるために家と云ふものが造られてゐます。入口が一つしかなく、しかもその入口にはアンペラなどがかけてあつて光線は殆ど入りません。これが健康によいのです。日本でも古風な家は（北國でも！）なるべく光線が入らない様に造られてゐます。これは日本が一日中光線のよくあたる陽性の國（日の本！）ですし、その陽を浴びて朝早くから夕方まで一日中よく人が働く（陽になる）ので、その上家の中まで陽がよく入つてはタマリませんから、つまり陽がすぎますから、せめては休息所としての家を十二分に陰性に造るのであります。休息所であれば、陰性でなくてはならない筈であります。西洋の様な陰性の國々でも（英國は「霧の都」で有名なロンドン、フランスは「時雨の都」のパリ）がその代表で、パリ地方は一年の中晴天は二、三ヶ月位、ドイツも陰性な國です）やはり家はごく陰性なたて方で窓が大體小さくて少いです。最も最新式の建て方は皆窓が多く大きくなつて來ましたが、これは陰性の食物（クダモノ、サトウ、のみもの）が多くなつたからです。日本の古風な家は光線を餘り入れない様な建て方ですが、風はよく通る様になつてゐます。これは夏の空気にシメリ氣、水分（陰性）が多いからです。陰性な古風な日本家にすむのが快よい様

なのがホントーの日本人です。出来るだけ多くの陽性と、できるだけ多くの陰性を取り入れて完全に調和させることが幸福であり、健康であり、長壽で賢明になる秘訣でありますから日本の様に夏は南洋の如くあつく、冬は北歐よりも寒い様な處にすみ、日中は出来る限り陽性に、夜は出来る限り陰性に親しむ様な家に住むことができたなら、もつとも幸せなワケです。

このごろ日本人は陰性の大へん陰性の強いクダモノ、サトウやアイスクリーム、コーヒ紅茶牛乳の様なものを澤山取る様になつたので陰性になりすぎ、光と熱を前よりも必要とする様になつたので、暖房装置や、照明装置、大窓、日光浴室の様なものを要求することになりました。

一三、年輪の物語——木には木目（年輪）があります。庭へ出て、山へ行つて木の切り目を見てごらん下さい。その輪は一つも同じのではありません。大きいや、小さいや、ゆがんだのや、長いや、圓いのがいろ／＼重なつてゐます。この一つ一つが長い／＼天地大宇宙の秘密を物語ります。ちつと立ち止つて聞いて見ると面白いです。同一の場所でも決して同じ輪がありません。（一本の生えるところに二本入れ子になつて生えるワケにゆかない以上、風や日

あたりがちがつてくるからです。草木は春から夏へかけて伸びます。あたゝかさの陽性が陰性の水分を引き上げるからです。だから伸びると云ふより太くなると云ふ方が正しいでせう。伸びるのは陰性の夜です。陰性になると水分の陰性は霜柱が伸びる様に下は大地に妨げられますから、上に伸びるより外がないのです。

この年輪を専門に調べたアメリカのアリゾナ大学のダグラス教授は、年輪には十一年目ごとに一定の變化があることを発見しました。これは太陽の黒點が十一年(正確に云へば一、二、三年)の周期をもつてゐることゝ確かに關係があるのです。その十一、三年の周期は木星が太陽を一周りする周期で、木星の引力やハタラクが關係するのであります。月でさへ地球の上にあるもの、棲むものゝいゝな影響を與へるのですから、木星だつて當然です。木星以外の數億、數千億の天體も一々それゝ特別な力を我々に及ぼすのであります。それについては面白い話があります。

地上に起る事をすべて昔は占星學などが天體のせゐにしてゐましたが、近頃は太陽の黒點のせゐにしてゐます。これはドチラでも同じことで、占星學が迷信なら、現代の太陽黒點説も迷

信です。然し、ドチラかと云へば占星學の方がたくさん星を勘定に入れてゐますから、太陽黒點一點張りよりは、より合理的で迷信の度はうすいのです。占星學も天體ばかりでなく宇宙全體を支配してゐる力に立脚して云ふのなら正しいでせうが、それは無双原理だけではありません。戦争、革命、凶作、ひでり、大水、鐵道の椿事、相場の暴落などからお産や、死亡まで太陽の黒點ばかりで片付けようとするのは全く迷信であります。科學的迷信です。

科學的な迷信が科學の國に生れるのは、唯物的、實證的な科學の中にも、まだゝ迷信がひそんでゐること、科學は迷信の双生兒であること、いや科學も亦迷信の一種である可能性を示すものであります。同時に人間と云ふものは何かしら絶對的な神秘的な宗教的な偉大な力に對し畏れとあこがれをもつてゐることを示します。その偉大な力、絶對、無限、眞理とは大自然の秩序であり、それを分りやすく説くのが無双原理であります。

この太陽の黒點と年輪の間に一定の關係があると云ふことはたしでかす。黒點だけで年輪が支配されるワケではありませんが、その影響は大きいのでよく讀みとれると云ふのです。木の切り株に腰をかけないで、その傍に立つて(疲れたら座つてもよろしいし、おなかゝすいたら

辨當をたべて下さい)、年輪が語るおもしろい歴史物語を聞いてやつて下さい。半日や一日はすぐたつて了ひます……

一四、太陽の黒點と丙午——太陽の黒點が活躍する年にはいろいろな事が地上にも起ります。地球の磁氣(電氣と同じ正體!)が大へん亂されます。磁氣嵐がおこる。従つて氣象も大へん變る。人間も大へん影響をうける。アルプス地方にフェーンと云ふ氣味わるい、重苦しい南風が吹くのもその影響の一つであると云はれてゐます。これが吹くと人々は、弱つた金魚が水面に出てブカ／＼口をあける様にみな窓をあけ、顔を出します。陽性の風ですから陽性の人には怒りぼくなり、いら／＼します。自殺が多くなります。

ロンドンでも東風が吹くと自殺が多くなつてゐます。こんな時は水中の魚までやられます。私はパリー郊外ソオの公園で、ある暑くるしい日に大きな鯉が澤山死んで浮いてゐるのを見てどんなに残念に思つたことでしたか。

昆虫も太陽黒點の活躍する年には落ちつきを失つて大移動をします。甲蟲、トンボ、いなご、バッタ、蝶、ナメクジ、蟻……

シベリヤの野鷄等がヨーロッパの方へ大移動をするのも黒點のせむだと科學者は云ひます。アメリカの野うさぎや、山猫の數の増減、ドイツの山林の昆虫類の死亡なども黒點の活動する年には變つてゐるさうです。

この黒點を近頃發見したのはドイツ人の一藥劑師ですが、支那では二千年も、三千年も昔から分つてゐたし黒點の觀察の記録もあると云ふことです。その十一、三年周期も分つてゐたしそれよりも、もつと目に見えて地球にはたらきかける月の力の研究も深くされてゐたので、それらを組み合せて實用的に作り上げたのが太陰曆であると云ひます。だから丙午などが頭に頭から迷信だと云つて了ふのは、少くとも非科學的な態度であります。丙午の現象が少なくなつても、なくなつても、それは一つの根本原理の應用、實用の間違ひ、又は狂ひであり、或は適當に調整すればまだ役に立つことかもしれないのであります。私は丙午の人を十人位知つてゐますが、何れも剛情な人です。然しそんな性質をもつてゐて丙午でない人も澤山あり、丙午でなくて丙午以上の人もあります。だから何がかくも剛情な不幸せな性格を作り上げるか、分れば、つまりその原理さへ分れば、新しい丙午の迷信を作つてもいゝワケで、それは科學的丙

午として通用するでせう。然し、數千年たつて、その原理が失はれると、また民間の迷信になつて了ふでせう。

一五、満潮と干潮——潮のさしひきが月に關係があることや、人の生死に關係のあることは古くから知られてゐます。人の體液や神經組織、髪の毛、精神、氣分の様な陰性のものはみな月の支配を相當うけてゐます。月みれば千々にもものこそ悲しけれ……と歌つた詩人があつたのは有名です。

草や木も月の引力で、その水分を梢の尖端まで引き上げます。だから藥草をとるときに東洋でも西洋でも満月の夜とか新月の夜とか云はれてゐるのも、みなその水分の多寡、陰陽の大小によるので、「決して迷信ではない」とドイツ人科學者ロルフ、ライスマンでも云つてゐます。

アメリカの熱帯地の木材は満月後に伐つた樹と、前に伐つた樹で同じ様な樹でも値段が違ふと云ふことです。

ドイツでは昔から、髪を刈るは満月以前でなくてはならないと云ふ信仰がありますが、これも無双原理から見ても面白いではありませんか。つまりドイツの様な陰の國では陰過多のときに

陰の髪の毛を取ると云ふのはいかにも理窟に合つてゐます。

夢遊病者と云ふのはアチラによくあります。これは陽が過ぎたので、思はず月の陰性な力に引かれるのであります。コーモリの様なものです。すぐ食物だけで治ります。寝つかれないのは陽性がすぎたゝめのと、陰性がすぎたゝめとあります。

一六、宇宙線——地球には私共に見えない宇宙線の彈丸が無數に夜もひるも絶え間なく、ふりそゝいでゐると云ひます。

我々は一時間に何百個だか何千個だかその彈をうけてゐると云ふことです。⊙これが何處から来るか、⊙一體そも／＼何であるか、⊙何んな力をもつてゐるかと云ふことはまだ科學にも分らないのです。

それは太陽から来るのだらう、とか、月からだらうとか云ふ説がありました。何れも間違ひであることが分りました。では銀河から来るのだらうと考へられました。けれど、二十三分間五十六分毎に特別な強度を示さないから、それでもないと云ふ事になりました。それでは大きな星が破壊されて、その星全體が放射線になつてくるのではないか、と云ふ様な説もたてら

れたり、破壊されたり、改造されたりして、まるで宇宙線そのものゝ様に捕え様がありません。これは無双原理世界観から見ればワケもなく解決出来ませう。定理三と五で！

宇宙線だの、物質だの、エネルギーだの、電気だの、量子だの、エーテルだの科学には分らないものが多すぎる様です。これはいづれ別のキカイに無双原理で説いて見ませう。

とにかく宇宙線と云ふものは無双原理の定理一や二で云ふ天地創造の行程なのです。それは一種や二種でなく無限の種類があるのです。天地創造説を迷信の様に一笑に付した科学は今にその天地創造の事實が現在も行はれつゝあるものであると云ふ事を知つて、自分の不明を恥しく思ふ様になるでせう。

物質だけが宇宙を構成してゐるかの如く思ひ込んでゐる（しかもその物質の本體さへ知らずに）人々は、やがて大きな大きな、廣い、廣い新しい無限の世界——精神の世界を行手はるかに見出すでせう。

一七、カラス鳴き——ドイツのある大きな病院で、ある有名な外科醫術の大家が手術をしてゐたが、その時、庭で澤山カラスが集つてしきりに啼いてゐた。手術後のその患者は死んで了つ

た。これは何か関係があるのではなからうかと云ふので、大へん問題になりました。日本では昔からカラスの啼き聲が悪いと氣にする。インドでは烏葬と云ふのがあつて、死んだ人を屋根のない國技館の様なところへ晒してをくと烏が集つて来て食つて了ふと云ふ。スイスではフェーンの吹く日に手術をすると結果がドーモ面白くないと云ふ事が分つてゐる。

歐洲でも處かはれば品かわる、で或る地方ではカラスの代りにコーモリ、或る地方ではクモになつてゐる。無双原理から見るとカラスでも、クモでも、コーモリでもみな同じく陽性を求める動物である。そんなものが集つて來たり、出て來たりするのは、もちろんその土地、その場所の陰陽の調和が何らかの原因で破られてゐるからで、そんな時に生理的・心理的に變化が起るのも別に不思議は何もない。

十九世紀の中頃まで、歐洲の病院の醫師は病床日記に必ず天氣のことを、かゝねばならないことになつてゐた。リョーマチスや喘息、神経痛、蓄膿症まで天候に敏感であることはよく知られてゐる。現在の病床日記は脈や、熱や呼吸ばかりを計つて記入するけれど詳しい天候——天地の變化——は記入しない様です。これは病人を天地大宇宙から獨立した一の體系として見

るものです。無双原理世界観の一應用である食物療法では身體、人間を作り生かす一切の環境を考慮して、それを食物で調和させて行くのです。

一八、大宇宙と精神、神経——無双原理世界観は無限大の大宇宙が即ち我々の精神であつて肉體はその精神放送局の一受信機であると教へますが、その證據は、かの黒雲をツン裂いて閃く電光イナヅマの形が我々の神経組織によく酷似してゐることも分ります。そして稻妻の閃く様な時には我々の神経や精神も異常な緊張を示してゐるのです。そして電氣の放電よりも神經精神の動搖の方が早く起る事實（嵐風雨の前に起る事實）はますますこの世界観の正しさを物語るものではありませんか。宇宙が我々の精神であり、肉體がその一部でなかつたら、どうして、我々が宇宙を想像したり理解する事が出来ませう。又、神人一如とか物心一如とか、一億一心とか云ふ事も、この世界観を不完全に認識してゐるのでなければ云へない事ではありませんか。

一九、水のしぶきとイオン——夏、海の波のしぶきや、噴水のしぶきがかゝると我々は大へん氣もちよく感じます。それは水のしぶきの涼しさによるのでありますが、しぶきが何故私共

を爽快にするかと云ふと、それはしぶきが空中に電氣を放電するからで、つまりイオンをまき散らすからです。イオンは人間の生活に重大な意義をもつ電氣を撒いてくれるのです。イオンには軽いのと重いのと二種あつて、軽いのは空中をさかんに飛びまわり、重いのはゆつくりただよつてゐるのです。この二種のイオンの組合せで私共は爽快になつたり、重苦しくなつたりするので。この軽い重いがすなはち陰と陽なのであります。

映畫常設館などで、いやな感じがするのは軽いイオンがしめつて、埃などがついて重くなつて活動がにぶつてゐるからです。昔は炭酸ガスのせいだと思つてゐましたが、むしろこれは重いイオンが多くなるからだと云ふことがこの頃分りました。無双原理から見れば分り切つたこと、たくさん陽性の炭酸ガスがたまる様な處に陰性のスーツとした氣分が出ないのは當然です。だから窓をあけて空氣の流れをよくすると、すぐ陽性になつた空氣は外の大きな陰性に引きつけられ、外の陰性の空氣は内の陽性の空氣にひきつけられ、入れかはるのです。だからこの時に西洋窓の様な上げ下げの出来る窓なら、上と下をあける方が、一方へあけるより効果的です。陰の入り口と陽の出口を別々に作つてやると、電車の乗降口を別にする様なもので、コンパシ

ません。障子でも中央を左右へあけるより左右を別々にあける方がよろしい。

キリが出ると重い陽性のイオンが多くなつて、人間は重苦しい感じをおぼえます。ロンドン
は霧の名所でありますが一八八〇年に三日三晩深いキリがかゝつた時は、ヒル間も全くのヤミ
でした。この三日間にロンドンで死んだ人は平常よりも三千人も多かつたさうです。私もこの
ロンドンの霧にはあきれました。何しろ朝十一時だのに、強い自動車のヘッドライトがまるで
灯の消えかけたボンボリの様に見えるのですから……私はイギリス人の重厚な性格は陰性なイ
ギリスの國土でこの陰性な空気がイオンや、陽性な肉食を多くとるから來るのだと思ひます。

二〇、フェーン——が吹くとき、スイスのインスブルックの町で、學生の試験をすると必ず
一人のこらす成績が平素よりグツト悪いと云ふ事が知られてゐます。しかもこのフェーンから
來る症状はすべてフェーンの吹きはじめる四十八時間前から起るのです。フェーンの時は醫者
や病院ばかりでなく、警察も犯罪者が増すので忙しくなります。

地中海に吹く南東の熱い風シロツコも、交通事故や樁事や犯罪を激増するので、伊太利では
シロツコの吹く日の犯罪は、特に情狀が酌量される様になつてゐると云ふことです。空中の電

磁氣の變化のために運轉手の指先の感覚がにぶり、事故がよく起ります。東京あたりでもよく
統計を調べたらそんなことはたしかにあるでせう。アメリカで空中のしめり氣が少くなり溫度
が高くなると病人が激増し、悪化し、赤ん坊などで二日位で死ぬるのがよくある相です。

こんな目に見えない天變地變が一々私たちに影響すると云ふことは何と云ふ恐しいこと
せう。そのために犠牲になつたり、斃れたりするのはもちろん弱い人から順になつてゐます。
平素から正しい食物を身土不二の原則によつて取つてゐる人はそんな恐しい環境の變化に對し
て、平氣で知らずに耐えて行けるのですからありがたいものです。私共は病氣にならないこと
「健康の六大條件」を知らぬ間に一日々々完成しつゝあることを喜ばなくてはなりません。

二一、動物の直感——天變地異が近づく動物がいち早く逃げ出したり、穴にかくれたりす
ることは支那は申すに及ばず、日本でも西洋でも昔からよく知られてゐます。千葉のある天文台
の技師の話ですが、ある日附近一帯の蟻の大群が丘の上に大移動をやつてゐるのを見付けまし
た面白半分天文學者らしい克明さで二、三日觀察をつゞけたのですが、その大移動が終るとす
ぐ大雨が始まり、大洪水になり、丘の下は水につかつて了りました。これを見た天文學者は自分

よりも蟻の方がすぐれた天文学者である事をつくづく悟りました。

十数年前、パリの屋根裏でコツ／＼無双原理西部戦線の策戦計畫をたてゝゐる雨ふりの眞夜中、私は机に向つてゐるのに珍らしく南京虫の襲来をうけました。どこの家でも私が二、三ヶ月以上すむと南京虫もノミもゐなくなるので、この屋根裏にも一匹もゐなくなつてゐた筈なのに――

暫くするとまたやつてくる。ハテ奇妙だなと思つてゐました。誰がもつて来たのかしら、この巴里の屋根の下を訪ねる人は殆どなかつたのに、もしか何かの荷物について来たのではないかと考へても心あたりがありません。私が何處かでもらつて来たか？――と云つても大學の地下室の分光學研究室や、バストウール研究所でカタツムリの心臓の銅の分析や、土壤の分析位ひを一日立つてやつてゐる私には南京虫の近よるキカイがありません。

その中に夜があげました。その朝からセーヌ川（巴里の中央を流れる深い河、水面は地上から十尺餘りも下にある大きな河）が水を増し、遂に翌々日は水があふれ出し、巴里市中は大水になりました。南京虫はこの大水を前から知つてゐたので急に移住して来たのであります。

さてこそ新米の南京虫先生、正食一本鎗の名人で巴里に「乞食坊主」ありと名も高き私―間違へば南京虫を取つて食ふ程の―猛者とは知らず、私を嚙りかけ挑みかゝつたものであつたワケ……宿の主人ワトラン博士夫人に聞いて見ると、いや南京虫の移動は十年に一度位はあるのですよ、私は下にゐたから、こんどは氣がつかかなかつたが二階以上の人はみな知つてゐたでせう、との話でした。

品川のある工場、正午近く一頭の馬が石炭を工場に運んで来ました。さて荷を機關室のポイラーの前にをろした博勞が、ひるめしを頂かうと思つて（いつもする様に）この馬をそこにつないだまゝでゐると、さあ大變、大人しい馬があばれて仕方がありません。人間と云ふものは馬鹿なもので馬の云ふ事が分らないのです。身近に迫つてゐる大事件を馬が知らしてくれてゐるのにそれが人間には分りません。でも博勞先生は仕方がないので手づなをとつて少し歩きまして物の蔭へ来ると馬が大人しくなつて了つたので、そのまゝソコへつなぎました。その途端その時はやく彼の時をそく、忽ち起る大爆發！三三〇〇ポンドのポイラーが破裂し、屋根を破壊し、二百米も彼方の海の中へ飛んで了ひました。博勞と馬は危いところを命拾ひしました。

いや馬に馬子が救はれたのでした。

冬、穴に入つて春まで眠る獣や虫は、寒さのきびしい年は穴を深くほつてゐますし、暖い年は浅くしか掘つてゐません。冬眠に入る前から冬の氣候がたしかに彼らには分つてゐるらしいのです。獵師はこれで「此年の冬はめつぼう寒いぞ」とか「樂だゾ」とワリ出すのです。

暴風雨の来る前には鳴く鳥が沈黙して了ひます。蜂や、蟻やトンボも暴風雨が来るより前にチャンと避難して集つてかくれてゐます。彼等の測候所はたしかにロンドンの空襲警報よりすぐれてゐるらしいです。まだ雷がゴロツともピカツとも云はない先から牝牛はそれを知つてゐて落付きを失ひ、牛舎に歸りたがります。雨がふる前に蛙のなくのは皆様御存じ……

馬は天變地異を少くとも三日前から知つてゐるらしく、地震とナマヅの関係はよく一般に御存じの通りです。ナマヅばかりでなく一般に魚はそれを知つてゐる様ですが、陰性のコヒやウナギでも敏感です。すべての獣は地震の来る前に危険地域を逃げ出します。天災地變の豫知法が欠けてゐるのは現代の人間だけらしいです。とにかくドイツの科學者でもこれはハツキリ見とめてゐます。

こんなのはみな人間に感ずることのできない宇宙の未知の放射線のせいであると科學は云ひますが、私は人間にもそんな第六感はあるのだが、それを殺してゐるのが科學だと思ひます。實さいこう云ふ能力を直感とか第六感とか申しますが、私はこれをかりに靈感と呼びませう。この靈感はあらゆるものに共通ですが、陰性の動物にはとくに強いのです。人間でも男よりは女に、陽性よりは陰性に強いのです。(此の陰性が強くなりすぎると神經質とか神がかりとか云はれて妄想家になります)。科學は神經の末端、五官だけを主として、その觀察の結果をさらに抽象して客觀的智識とし、法則化して世界を探り知らうとするのでありますが、それと同時に、いやそれより先きに、この何人へも生れつきそなはつてゐる靈感をも發達せしめる様な事も必要で、且つ面白く、且つ便利なことではありませんまいか。西洋では科學ばかりが發達し、東洋ではその代りに精神(靈感)の學問―道―ばかりが發達した様です。東洋の古代の聖賢はこの五官、神經の末端ばかりを用ひる様な學問的傾向を禁制した事實があります。實さい靈感ばかり精神ばかりで平和に幸福に生きてゆけるものなら、それを發達せしめる様な實地教育、鍛鍊を主とした方が良いでしょう。また實さい靈感、精神さへしつかりしてゐれば立派に樂

しく生きてゆけますし、よし神経の末端で作り上げた物騒なキカイや武器をもつて攻めてこられても十分防対抗出来るのです。それに精神がしつかりしてゐなくては、いかに武器弾薬があつてもだめなのです。「ヒットラーの世紀の凱旋は全くその精神力である」と伯林アルゲマイネ、ツアイトウング紙は報じてゐる位です。もちろんこの靈感、精神の鍛錬が科學の研究よりも六ヶしいことは申すまでもありません。

まれに金力や武力や勢力やいろ／＼な力を用ひて正しい靈感のある人を謀略や卑劣な手段で斃す様な事もありますが、そんな場合には必ずそれらを用ひた者が早晩また他の卑劣な者に斃されるか、自ら亡びるかします。第一、卑劣な武器や手段を用ひると云ふことがすでに劣敗者である證據であります。

無双原理はこの精神靈感の向上、發達、展開をネラフのであります。それは天地、陰陽、まことの「道」に達する手段であります。達道、達人(達者な人)を造るのが目的であります。すべての教育はこの精神をとらねばならないものです。西洋の科學でも、ズバヌケタ人々はみなこの達人であります。又は達人に近い人でもあります。絶対に謙遜であることがその證據です。ニユ

ートンの有名な晩年のことばはその證明でありませう。

二二、氣候と人間——ベルリンの産科病院では氣候が不意に變ると産婦に大へんな影響があることが實さい證明されてゐます。たとへば急に溫度が高くなつたり、空氣が陽性になつたりすると、赤ン坊が早く生れたり、お産が軽くなつたりします。陽性の赤ン坊は陽性の力で下へ飛び出すのですが、外氣が陽性になると、それが促進されるのは當然のことです。このワケが産科ではまだハツキリのみこめない様です。

アメリカのある銀行家は、氣候が温くなると帳面の記入の間違ひや、計算の誤りが非常に多くなると云つてゐます。

赤やピンクの硝子屋根の紡績工場では大へん能率が悪くなり、仕事が粗雑になり、また口論や争ひがよく起る事が分つたので、フランスのリヨンのある紡績会社ではあの鋸形の屋根の硝子をみんな藍、空色にしました。それで大へん成績がよくなりました。それでフランス中の紡績工場が空色の屋根を作りました。それにならつて今では他の工場まで——工場と云ふ工場は全て空色を用ひるになりました。多分教會のステインドグラにミドリ、青、空色系統のも

のが多く神聖なおだやかな気分を與へることから思ひついたのでせう。みな陽性は色でも温度でも、空気でも、イオンでもそんな効果をもつてゐます。

二三、寒暖計のウソ——寒暖計を見ると暖かい筈なのに、寒いことがあります。又その反対に涼しいはずなのにあついときがあります。これを以前は人間の感覚が頼りにならない證據にしてゐたのですが、最近、科學にも寒暖計と云ふものが正確なものでないことが分りました。體溫計などでも正確なものが殆どない上に、用ひ方でいろ／＼ちがつた結果が出來ます。

かりに、十八度の鐵板を握つて見ます。それは冷たい。しかし、十八度の木の板を握つて見るとさほど冷たいとは思はない。これを科學は鐵が良導體であり、木が不良導體だからと説明して満足します。しかしなぜ鐵が良導體で木が不良導體であるかはまだハツキリ説明できません。

冬お風呂に入つたとき、お湯にかゝる前より、かゝつてから入るまでの方がいつそう寒さを感じる様なことがあります。又おなじ二十度でも水の中と外ではちがつた感じがします。いづれも無双原理から見れば面白い問題です。

大ていのバクテリアは寒さには強いが熱にはモロイ、これだけでバクテリアが總じて陰性である事が分りませう。だから常にバクテリアの犠牲にならない様な、一生絶對免疫性を獲得するには陽性を消さない様に適當に守つてゐるだけでいゝ事がわかりませう。つまり鹽氣の陽性労働の陽性などを毎日適度にとつてゐればよいので、過度の陰性—砂糖、クダモノ、牛乳、水アイスクリーム等——をふだんに常にとらねばいゝのです。クダモノを肺病患者に與へると熱が上つても、下らないこともこれで分るでせう。又、肺病でも何病でも重い時は必ず熱が出るのが、必要だからと云ふこと、その熱をムリに不自然な方法—解熱劑や氷で取らうとこゝろみるのは大害のある事だと云ふことも分りませう。

二四、夏まけとプロミシユースの神話——夏になると食慾がおちるのは、食物と云ふ陽性を澤山取る必要がない程、世界が陽になつてゐるからである。それをムリに食べさせようとしたり、夏ヤセを氣にしたりするのは間違つてゐます。夏は陽性のときですから陰性の草木は大いに繁茂生長しても陽性の動物は大いに瘦せるのが正しいのです。ギリシヤの神話で、人間に火を與へたプロミシユースが罰として岩にしばりつけられ、毎日鷲に肝臓をツ、カセ食べられま

したが夜になると肝臓はもとの通りになりました。(これと同じ様な話が地獄物語にいろいろあります)。

「この神話は古代人がいかに生物學的直感力が卓越してゐたかを證して餘りあるものである」とドイツの科學者ライスマンは云つてゐます。つまり(火)陽を與へたこと、この神の肝臓(陽性)が尋常なものでなかつたこと、火の様な性格は肝臓の陽性のごく強い人にあること(肝癩玉)などの關係を直感で知つてゐたのです。

二五、ペストと鶏——パストウールはあの有名な細菌學の親であります、あの人の奮闘の生涯は映畫「科學者の道」でよく現はれてゐます。この人は醫學者でなく、醫者でもなかつたので、いろいろ白眼視されたり、迫害されたり、嫉妬をされたりしたのですが、醫學界や細菌學生物學に於ては全くの素人ありました。素人は大膽です。また古來全て偉大な發明は素人の手によつてなされてゐます。素人は専門家の様な先入観、片よつた見方をせず、あくまで謙虚な態度でゆくからです。それを伸ばすのが無双原理の研究です。(映畫「科學者の道」はぜひ一見する値があります)。

しかしパストウールはやはり最後には自分の作つた専門(細菌學)に入つて了つたため、大へんな汚名——フランス醫學の暗黒時代招來者——を死後につけられる様になりました。私共もよくよく注意しなくてはなりません。排他的態度が硬化したらおしまひです。

さてこのパストウールの研究の惡戰苦戰は我々から見ると實に面白いもので、無双原理の分らない人、大觀のいきない人、(達人でない人)と云ふものは、かくも苦しむものかと云ふことをイヤと云ふほど見せてくれますが、その一つ——

パストウールがペストを研究してゐたとき、ペスト菌をいくら與へても死なない鶏がゐました。が或る日、冷たい水の中に立たせてをいたら、間もなくペストになつてコロリと死んで了つたのです。これをパストウールは考へて、考へて考へぬいたあけく病氣に對する鶏の「抵抗力」が寒さのために失はれたのだ、と解釋して満足して了りました。すい分非科學的なリクツです。彼は一方熱心なカトリック信者で「私は宇宙と云ふものが、雜然たる物力の交錯以上の神秘的な何物かであることを心の奥ふかくに信するものである」と云つてゐますが、その神秘的な何物かとは生命であり、天地、陰陽の秩序でありと云ふ事を知るには至らずに、長い間中風で

半身不随を患つてからあはれな最後をとけました彼の發見したベストは陰性のものであつたのです。だから、ベスト菌に對する抵抗力をもつてゐる鶏（陽性）でも水の中（陰性）に立たせると、ベスト菌の陰性敵性は水の陰性の援軍の力をかりて活躍を開始し、繁殖し鶏を斃すのであり、これも陰陽秩序の領解の一助とする現象にすぎないのであります。（ポール・ドクリュフ著「細菌の獵」同「死と闘ふ人々」〔改名「醫學の勝利」〕は何れも和田日出吉君の快筆によつて邦譯されてゐます。そこに如何に多くのすぐれた人々が科學の建設の爲に悲惨な死闘をしたかと詳しく語られてゐるのを見ると、人々は多大の感激をうけるでせう。そして無双原理を知つてゐる人々は彼らの苦しみと悩みがすべて無双原理世界觀を知らざる爲に招いたものであることをも知り、いまさらのやうにこの無双原理の偉大と優越を思ひ、これにふれた感激におのゝきを覺える事とせう。前者の發行所はなくなりましたが、後者は第一書房から出てゐます。今でも入手出來ます。志賀潔博士の「エールリツヒ傳」や小泉丹博士の「野口英世」〔岩波新書〕、エツクシテイン著「全傳野口英世」〔青年書房〕なども、映畫「科學者の道」と共に一見する値が十分あるものです。

二六、人間と氣候——アンドレ、メスナールと云ふフランス人は「人間と氣候」と云ふ著作で、氣候の大切な事を力説し、「何故澤山醫者がゐるのに一人も人工的氣候をつくる方法を考へなかつたのか。實に驚くべき事である」と云つてゐる。氣候——環境一切——空氣の陰陽から氣壓、風（氣流）、電磁力的關係等一切をぬきにして、病人を環境から獨立させてゐる現代の醫學が實に大きな、大きな間違ひの見本とも云ふべきものだ、と云ふのは正しいですが、さればと云つて、その氣候を變へようとか、人工的氣候を作らうとか云ふのはまた餘りに人間の力を頼みすぎた排自然的反逆的考へ方ではありませんか。それよりも、そんな天地、大自然の秩序（陰陽）さへふみ外さない様にするこの方がドレ位手軽で根本的だか分らないではありませんか。この方法なら教育の中に織り込んで了へばよいので、經費も人工的氣候療養所の設立も何もいりません。

二七、見えないもの——見えないものを見、聞えない音を聞き、光を聞き、音を観る力をもつた人や動物がよくあります。さつきの馬や、巴里の南京虫や、千葉縣の蟻などがその例であるが、人間にもこれがあります。たとへばエスキモーは北極光の音が聞えると云ふし、アメリカ

カ西印度の土人は、何處に獲物がゐるか、ゐながらにして分る。或る光りが出てゐるのが見えると云ふ。アフリカの或る地方の土人は獲物のゐる方向が風の匂ひで分ると云ふ。

支那では道路や鐵道が工事に何の困難もない所を大廻りをしてゐるのがよくあります。これは地相や方位が悪いからだと云ふ。支那には克山地方の克山病とか、熱河の名物癌とかいろいろ地方病があります。これは地位地相によるのであり、その地相の因子が分らないから克服出来ないであります。スイスにクロツプテラー（甲状腺腫の谷の人）と云ふのがあります。その地方の人々はこの病氣にかゝりやすいのです。これも地位地質の問題です。フランスのあるブドーの産地で一の區域がステキに良いブドーを産するので、その株を移植して見たがどうしても元の香りや味が出ないことがハッキリ分りました。これも地位、地質の關係です。けれども地位、地相の問題はよくその地位、地質の何がある現象の原因であるかと究明されれば或る程度はコントロールが出来るものです。

たとへば、ジャバのある白人の癩病村は、土人と往來するけれど土人には八十年間一人もうつらない、それなのにそこから百キロメートルも離れてゐない村の癩療養所では醫者や看護婦

が非常に氣をつけてゐるのに、三分ノ一はかゝつて了ふ、と云ふ事實があるのです。村は二つながら殆ど同じ氣候で、草木まで同様なのが出てゐるのです。これは白人の食物（身體の内）部に取り入れる地質環境！が土人のとは全く系統が違つてゐるからでせう。事實、癩病者を數十名治療した私の経験では斷乎としてこれを斷言出来ます。だから正しい食物の原理が分りその正しい選擇ができ、食物をコントロールさへ出来れば地位地質に餘り因はれる必要はありません。然しこの大きな問題——體內環境全體を構成する食物を忘れてゐたり、その原理を知らないではそれは出来ません。

ヨーロッパでは中世紀の終り頃急に癩病が少なくなつてゐますが、その理由は今日まで謎となつてゐます。これは中世紀から交通がひらけ、片よつてゐた食物が訂正され、異國のものがポツ／＼入りだしたため、自然に毒を以つて毒を制した形でありませう。

その原因、食物の原理が、身土不二が、血と土の關係が明らかに把握されないかぎり、またその中に癩病が突然増して来て面くらふ事がありませう。或はもう癌の様な形になつて現はれて來てゐるのでせう。それを宇宙のいろ／＼な放射線のせいにしてゐるのは、おかし

いことでもあります。神様はそんなに人間を玩弄されたいでせう。

二八、地球の磁気——地球の磁極が北極と一致してゐない事は一般に知られてゐますが、その理由はまだ分りません。恐らくそれは地球の中の鑛物の大量なマスが偏在してゐるためであらうと云ふ事になつてゐます。その鑛物の大量なものはニツケルだと云ふことになつてゐますが、それなれば、その在り場が一定してゐるのですから磁極も一定してゐる筈なのに、反つて動いてゐるのです。だからドイツの海上観測所では五年目ごとに新しい海圖を作らなくてはなりません。地球の磁極が西から東へ動いてゐるからであります。

磁石の赤い針は眞北をさす、少し西北をさしてゐるのですが、もう數年するとベルリンでは磁石が眞北をさす様になるさうです。こんなワケで前歐洲大戰前に出た磁石は今日はもう正確ではないのです。私の素人考へでは磁気は地球だけの發するものではないのですから、天空、宇宙と感應相關してある現象ですから、長い間にまだ變るでせう。地球は昔には北南に廻つてゐたことがあつたのでせう。これは冬季大學で私の出した生玉子の問題を參考にして、みなさんの御研究を願ひます。(生玉子を横にころけすと、一間ところけない中に立つ

て、タテにころけます)。

二九、大地の力——地磁氣と一口に云つても、これにまたいろいろあるのです。同じ地方の同じ様な地位地質のところでも作物のよくとれるところと、とれないところが並んであることがあります。これは地磁氣の強弱と云ふよりも、むしろ質の相違があるので、こんな二つの地帯が不意に入れ變つてこれまで悪かつた地帯がよくなる事があるのはそのためであらうと云はれてゐます。

昔「魔法の杖」で地下の鑛脈を探したことがありました。これは地下の鑛物の放射線や地磁氣の關係を見ようとした試みであつたのです。最近では地中の鑛物の放射線がそれ／＼分つてゐるので、地質地圖も作られる様になりました。北斗石は日本では秋田縣の鹿場温泉と台灣の北斗温泉の二ヶ處しか出ませんが、この石の放射線は肉眼には見えませんが、特殊なカメラでよく寫し取る事が出来るさうです。北斗石ばかりでなく大地はどこでも我々に見えない放射線を出してゐるのです。温泉にはみない／＼な放射線があるのです。この地から湧く水や湯についてはいろ／＼な効驗がある事が古くから知られてゐますが、いづれもまん更無稽ではありま

せん。谷川や、河の水でもいろ／＼な放射をふくんでゐることを昔の支那の聖賢は、ハツキリ認めてゐたので、それには現代のドイツやフランスの學者も全く感服してゐます。そればかりか、同じ河の水でも岸邊と中流とで性質が違ひ、水面と水中とでちがひ、汲み方でも流れに添つて汲むのと逆らつて汲むのもちがつて來ると云ふことまで舌できゝ分けてゐたのです。科學者なら、いろ／＼な複雑なキカイ、道具をもつて來なくては分らないでせう。いやそんなものをもつて來ても化學分析をやつても或は分らないかもしれません。よし分つたにもせよ、手數をかけてやつとの事で分るのは、舌一枚できゝ分けるのは大分ちがふでせう。この點についてナチスドイツのライスマンの如き科學者は男らしく謙虚な態度を示して、支那の聖賢の道をも研究せねばならないと云つてゐます。ところが日本では小學校の先生でさへも「身土不二の原則」は科學的ですか？などと聞いて來ます。科學が最高の審判官である様に思つてゐるらしいのです。これが日本の明治以來の教育の弊害です。ベルグソンの様な大學者や、ノーベル賞を取つたカレルの様な大學者でも「生命については全く無知であることが科學の特徴だ」とまで斷言してゐるのですが……

最近ある工業試驗場長N氏から直接私が聞いた話ですが、その試験場では近頃井戸を掘らせましたそしてそれを水道の水の代りに庭園に撒いた處十數日すると庭や石や燈籠一面に美しい／＼コケが生えて來たのです。水道の水は十年まいても生命力がない、ないのみならず殺生力をもつてゐたことがよく分つて驚き入つた。我が國の工業が外國にをくれてゐるのは、こんなさ／＼いな事にでも氣がつかかなかつたからだと云ふことが、ツク／＼分つた。とお話になりました。もう、二、三十年も前から私はこんな事ばかり話したり、書いたりして來たのですが、それを十數年前に、もうあきらめ、日本人は分つてくれない、何でも科學々と云ふ。それなら一つ科學の本場へ行つて大いに議論をして見よう、と云ふので十餘年前に歐洲へ出かけて、私は奮闘したのです。ところが、言葉や學問や思想や習慣の相違から私は三年あまり乞食以下の生活をせねばならないほど苦しみました。それから後は望外の歓迎を至る處でうけて、すい分幸せしました。あちらの人の方がよく分つてくれるのでした。それ以來私は西洋を第二の故郷の様に或は前生の故郷であるかの如く思へる様になりました。ほんとうの科學者の方が日本人よりも、日本の科學者よりもよく私の精神が分つてくれるのです。思へば昭和の初めの頃、

すでに歐洲の人々は新しき指導原理をもとめて探し廻り、尋ねあぐんでゐたのでした。それから間もなくヒットラーの出現となり、ヒットラー、ナチス黨の世界觀は、彼の知ると知らざるに拘らず、歐洲人の日本精神、東洋精神への接近である事をハツキリ示したワケであります。まことに光は東方より、法は西方より (LUX EX ORIENTE, LEX EX OCCIDENTE)とせう。これが新しい世界秩序莊嚴の序曲でせう。

三〇、大地と草木——松を北ドイツに植林した處、林はをろか、まるで一本もつかかなかつたと云ふことです。これをドイツ人がドンナに解釋したか知りませんが、松は温帯のもので、陽性を好む様です。海岸の松がよく生えるのを見分ります。然し、松はドイツよりも北のシベリヤでも生えてゐます。恐らく北ドイツではシベリヤよりも陰性の土地があるのでせう。

「クルミだと南北に關係なくよく生えて實もできる」と云ひます。クルミは冷帯のものですから當然です。これを窒素の含有量の相違がその原因だと云ふのはまだ不十分である、とライスマンは云つてゐます。正しいことです。

ある畑で、毎年ノガラシを抜きとつて根絶せしめる。そしてある夏その畑のスキにカラシ

を植ゑると、カラシに必要な地中の成分がみなそのスキに吸ひよせられて、その土地全體の放射線がそちらへ流れて行つて了ひ、大地の磁場も變つて了ふと云ふことです。ドイツ人の事ですから、こんな實驗も克明にやつたのでせう。しかし、こう云ふ實用生物學になると西洋の學者は日本の農家や、園藝家、植木やさんにはトテもかなひません。と佛國の有名な植物生理學者ブラリゲン博士が直接私に云つた事があります。

草木にも放射線があります。種子には電氣がありませんが、芽を出すと、すぐ核やそのまはりに電壓が起ります。こうなると、核はその周りの生活體の放射線にとりまかれ、その電壓に支配され、さらにその土地の磁氣に支配され、遂に成長と云ふ奇蹟を現はします。それがみんなたゞ陰と陽と云ふ力、秩序の展開なのです。この土地の磁力には強い處や弱い處があり電氣的に陰性の處も陽性の處もある事が分りました。

こんな研究があらではすゝめられてゐますが、英國では原野のヒースやつけの木は陽性でエニシダやアスパラガスは弱い陽性だと云ふ事が分りました。

またウサギは電壓のない處の草をけつしてたべません。羊は陽性が強い處ほどよく生長しま

す。昆虫の飛ぶ力は中性の處で一番強く、陽が強くなつても、陰が強くなつても弱くなるさうです。

船のマストや、大樹や、高山岩が発光する現象があります。これをセントエルモズファイヤと云ふそうですが、日本でも龍燈の松とか、大木に燈籠がついたと云ふ現象はみなこれです。人間の肉手は一種のアンテナでありましてこれも特別な装置で寫眞をとると發光してゐるのが分ります。

アメリカでは吊したユリカゴに赤ン坊を入れて育てるとよく大きく育つと云ひますが、これも植木鉢に入れて台の上ののせて育てると草が異常に發育するのと同様迷信ではないと云ひます。地磁氣、空中電氣の關係なのです。陰性な状態にをくからなのです。日本でも昔から「三分の飢じさと、三分の寒さ」で育てよと云ふのは陰性にせよと云ふことです。また昔から乳をやる事は忘れないが、水をのます事を忘れる母があると云つて、時々水をやる事を教へてゐますが、これも同じく赤ン坊と云ふ陽性を育て大きくする（つまり陰性にする）必要さを教へたもので、まことに正しいのです。しかし近頃の様に働かない陰性の母性が、甘い陰性のものや

陰性のつよいクダモノを澤山たべて作つた陰性の乳を朝から晩までやつてゐると、それだけで陰性が過ぎます。そこへ陰性の水を與へたり、水を澤山のむホルスタインの水の多い陰性の牛乳を吞ましたり、紫外線の陰性を與へたり、V、Cの陰性を與へたり、サトウと云ふ恐しい陰性までこの乳に入れてのましたら、それこそ殺人的であります。最近大阪府や神奈川縣での調査によりますと赤ン坊の三割は病氣をしてゐる事が分りました。これでは青年になるまでに半分位死んで了ふでせう。こんな事を知らないで人口問題を論じてゐる人が多いのですからさげなくて私はもういやになりました。

また現在日本には二百萬人の赤ン坊がゐるのにその中五十萬人は母乳がもらへないさうです。きつと牛の乳をもらつてゐるのでせう。こんなことでは二十年後に日本の壯丁は非常に少くなり、甲種合格はさらに少くなります。それに生後一年たつても三年たつても、十年たつても、二十年たつても健康になるために牛の乳をのんでゐる人があります。牛の子でも犬の子でも齒が生えたらお乳はけつしてのみませぬのに、現代の日本人は三千年も先祖の人々がのんだことのない牛の乳をのまねば健康になれないと云ふのは一體ドンナ譯でせう？

(三) 眞理の海原は廣し

三一、文明と自殺——英・米・佛・スエーデン等文明國に大へんに自殺がふへるさうです。

これは西洋文明が陽性の文明であるために衣食住、生活一般が陽性になり、陰性でなくてはならない人間（ことにその頭腦）が惱まされるからです。「陽きわまりて陰生す。」

三二、戦争と病氣——ドイツでは第一歐洲大戰當時には糖尿病と盲腸炎が減りました（平時アメリカでは一年一六〇〇〇人、イギリスでは三〇〇〇人死亡）これはもちろん美食が戦時でできなくなつたからであります。陽性食過多から來た盲腸炎と、陰性食過度から來た糖尿とが共に陽性と云ふ戦争でへつたのは面白いではありませんか。しかし、これは食糧難からばかりでなく、一つには戦争、戦時の労働増大と云ふ陽性現象が盲腸炎の原因である陽性食過大を無害にし、陰性食過度をも相殺したからであります。

三三、南へ行くほど赤紫——菖蒲の花は赤紫と紫と、その雑種の三色ありますが、三好博士の研究では北海道から九州までの間で、南へ行くほど、紫色が多くなり、箱根では純紫が多く

南へゆくほど、赤紫が多いと云ふことが分りました。そこで花の色も氣候によつて變化するかドーカ研究中であると云ふことです。無双原理からみると、南へゆくほど、陽性の世界へ入るほど、陰性の國を遠ざかるほど赤味が増して來るのが當然であります。ゲンノシヨコの花も南へゆくほど赤くなります。櫻の花も北へゆくほど櫻色がうすくなります。フランスの櫻の花はほとんど白く見えます。これは一次的現象であります。

この一次的な現象から次ぎの様なことを考へて見ると面白いでせう。たとへば菜の花は黄色です。これも北の寒い國、タトへば北歐などへ移したら、長い月日の後數世紀の後にはすつかり白くなつて了ふでせう。そこで數百年、數千年たつと、白い菜種と云ふ種類が出來て了ふでせう。その頃になつて何かの事情で元の黄色のナタネの種が絶えて了ふと人々はナタネと云ふものは白いものだと思ふでせう。またこんな事を知らない人、北の國に生れ外國を知らない人もそんなに思ふでせう。人間だつてその通りで、白色人種、黄色人種、黑色人種などと分けられてゐても元は一つです。色ばかりでなく形も性質、氣質、思想、血液型も同じこと陰性と云つても、陽性と云つても同じです。ジャガイモの様に數千年間陽性の土地に生えたも

のは、(ナス科一般に同じこと)、もう數千年の間に陽性も澤山取り入れてゐるので、陰性の土地に移されてもよく生える様になつて了ひます。しかし、數世紀もたつと元にもどるでせう……

三四、いちめないと花は咲かぬ——植物でも少しは風にあてたり、水を與へなかつたりして、いちめないと花や實をつけません。ざうり虫やパラメキウムなども餘り刺戟のない處にをぐと分裂生殖が止まります。これを汽車にのせて少し動かすと又元にもどります。陽性の苦しみがないと、陰性の静かさばかりでは、何でもよくありません。

三五、宇宙の力——「宇宙は力の法則で動く。力が天下を支配する。強い力が弱い力に勝つことは物質界の大原則である」から強いものにならなくてはならぬとアランは云ひます。この信念は歐洲の人々一般に共通である様です。ことに政治や政策にそれが現はれてゐます。これは物質界や有限界に於てはまことに正しいのであります。然し、この陽性の物質界、現象界、有限界を生み出す陰性の精神界の力の大きさを忘れてはなりません。有限界は無有限界に比べると一滴の水と大平洋全體ほどの差があるのですから。

三六、光、エネルギーの正體——光とは何でせう。エネルギーや電氣と云ふのは一體ソモ

〜何モノですか？ 科學は知りません。物質にあることもあり、物質から逃げることもあります。一種の波であるとも云はれてゐます。電子は電氣をおびた小さい粒子である(プランク)と云ひますが、一體その粒子は何でせう？ その電氣は、誰が、何が何處から、何時與へられたのでせう。そして何時とり上げられるのでせう。それとも永遠にそのまゝなのでせうか？ 波だとか、粒子だとか何か物質的なものを想像するのは唯物的な偏見であります。唯物と唯心の二元を越えた世界に入らなくては何も分りません。

無双原理世界觀をもつてゐる人はその世界の入場券を與へられてゐます。

三七、温い冬——冬があたゝかゝつたり、夏が涼しかつたりするとキット凶作や流行病が現はれます。だから冬あたゝかく、夏涼しいと云ふ様な國を氣候温暖だと云つて喜ぶのはマチガイです。日本の氣候を温和と云ひますが、イギリス、フランスやドイツに比べるとお話になりません。あちらでは年中同じ服でもすごせる位ですから、日本よりも氣候は温暖です。然し冬は寒く、夏は暑いのがいゝのですから、日本は理想的な國柄であります。冬の陰も、夏の陽も十二分に與へられるのですから。

三八、ナトリウムと植物——植物はナトリウム（陽性）なしでも育ちますが、育てた後に分析して見ると、いつの間にか、何處からかナトリウムが入つてゐます。これを見ても陰性な植物でもナトリウムの陽性を欠くことができない事が分ります。

三九、蝙蝠の冬眠——冬眠中蝙蝠は一時間に九回しか呼吸をしません、夏は一萬二千回もします。寒い陰性の冬、眠つてゐる陰性の時には陰性がすぎますから酸素の陰性を必要としませんが、活動（陽性）をする夏（陽）には澤山陰性のサンソが必要なのです。

四〇、男腹、女腹——夫婦の間に生れて来る子供は男と女とが入れ交つて居るのが普通であるが、時によると五人なり十人なりの子供全部が男か或は女ばかりの事がある。此様に男女何れかに傾いた出産をする母親に對して、あの人は男腹とか或は女腹だとか云ふ事を屢々聞いて居ます。

然しながらそれが單に俗世間の話であれば面白い表現法であるとは思ふものの、相當の權威筋の言葉として聞く時に我々の心は決して穩かではありません。細胞學的立場に於て、男女の出生は二分の一の蓋然率に従つて居り決して母親の御腹のせむにする事が出来ないからです。

蓋然率に従へば、五人の子供を持つ家族三十二を任意に集めた時に必ず一家族は其の子供が男又は女に片寄つて居り、十人の子福者の場合なら二十四家族に就て一家族は十人共男兒であるか又は全部女であります。而し實際と理論と符合して居る以上、男腹女腹と云ふ言葉は文化人の辭書から抹殺する必要があります。』

右はある帝大教授農學博士の言葉であります、身土不二の原則や、食物の陰陽が子供の陰陽を決定することを知られないからコンナ事を云はれるのです。それに、統計的調査も任意に選り出されたもの、むしろ盲滅法に取られたものであることや、博士自身が、數百、數千、數萬回統計調査されたことがないことを物語ります。統計は盲めつぼうにやつたのでは何にもならぬ事もあります。その反對の事實がないかドウか？ 地方的な差異はドンナ理由で出てくるのか？ 全ての地方、全ての民族の過去と現在とを一切調べ上げた上でなくては統計的眞實は認められるものではありません。そして統計的に事實であることが分つても、何故さうあるかを説明出来ない限りは眞實であるとは云へません。

四一、アザラシの體温——極地にすむアザラシや鯨の様な水中の動物は華氏の一〇四度内外

(攝氏の四〇度)の體温をもつてゐると云ふことです。寒い地方の生物ほど熱い地方にすむものより陽性の生物であることが分ります。

四二、左き——全人類の五パーセントは左きであるさうです。(南洋に左き多し!)

四三、日焼け、雪やけ——男の方が断然多いと云ひます。實際私共もその事實を認めます。これを男性ホルモンの故だなどと云ふのは頗る非科學的です。ホルモンの相違や、多少の原因がまだ(?)ですから。無双原理ではこれを、男性の方が女性より、より陽性であるからと云ひます。砂糖やけ、霜やけが女の方に多いのはその反對です。

四四、熱するのは易しい——物理の實驗や、工業界で熱することはやさしいが、冷やす事は仲々ツカイです。陽性の物質界、有限界、光の世界、人の世界ではムリもないです。その反對に精神界、無限界では熱することが六ヶしく、冷やすことは樂です。何れにもせよ六ヶしいことを樂に成すのは神様だけです。液體空氣を作る六ヶしさはこゝにあります。

四五、血液の型——人類の血液の型を四つに分けられます。即ちO型、A型、B型、AB型であります。

O型——意志強く刺戟に驚かず、精神力強く、きかぬ氣の人、確り者、自信の強い人が多い。

A型——内氣でおとなしく、引込思案で取越苦勞の人、遠慮深い人、讓歩的人。

B型——氣輕で、豪放磊落、物事に執着せず、快活で社交的な人。

AB型——AとBとの混合で、Aの勝つ事もあればBの勝つ事もあります。臨機應變、兩方をう

まく使ひ分ける人

これを陰から陽の順にならべるとA—AB—B—Oとなります。

次に各國民のA型とB型との比例(生物化學的係數)を見ると

	A型%	B型	A/B
英	四六・四	一〇・二	四・五
佛	四五・六	一四・二	三・二
伊	四一・八	一四・八	二・八
獨	四八・〇	一七・〇	二・八
澳	四八・〇	一八・〇	二・六

アラビヤ	三七・四	二四・〇	一・五
トルコ	四四・六	二五・二	一・八
ロシア	三七・五	二八・一	一・三
ユダヤ	三八・〇	二八・二	一・三

A型は北方、陰性に多く、B型、O型は南へ行くほど多くなります。だから血液型と云ふのも環境の産物陽性であることが分ります。

馬來	三〇・七	二八・二	一・一
黑人	二七・六	三四・二	〇・八
印度	二七・五	四九・七	〇・五

此中係数の二・〇以上を歐洲型、二・〇以下、一から二の間を中間型、一以下をアジャ、アフリカ型と云ひます。日本人は——一八位で中間型に属します。

四六、ウイタミン一覽表

病を治す	多く含んで居るもの	性質
A 佝僂病、眼病	魚、牛の肝臓、バター、卵黄	アルカリ、熱に強い、酸に弱い
B ₁ 脚氣	米糠、馬鈴薯、キャベツ、トマト	酸、アルカリ熱に強い、水アルコールに弱い
B ₂ 發育促進	米糠、大根、ホーレン草、牛肝臓	右 同
C 壞血病	オレンヂ、レモン、大根、キャベツ	酸、アルカリ、熱等に非常に弱い
D 成育不良	卵黄、バター、肝油	アルカリ、熱に強い、酸に弱い
E 不妊症	米麥の胚芽、ちさ、小松菜	熱アルカリ酸に強い

右の表でAやDが陽性で、その外が陰性であることが、それを含んでゐるものゝ性質から断定できます。

四七、地球の陽性——地球は時速六六〇〇〇哩と云ふ速さ（一秒一八哩半）で太陽を廻つて空間を走つてゐます。その上、自轉してゐます。その速さは一時間八五〇哩！ しかも太陽系全體が時速四〇、〇〇〇哩で宇宙を貫いて走つてゐるのです。だから地球は全體としてはなかく陽性です。

四八、地球は七月から十月——へかけて自轉の速さが増すと云ふことです。それは夏になり陽性になるからと云ふ譯ではありません。なぜならその季節に南半球は冬ですから。これはこの時分地球が太陽から遠ざかつてゐるからで、自轉は陰性の力であります。

四九、ことわざの眞實性——いろ／＼なコトワザや言傳へを無双原理やその一生理學的應用である身土不二の原則に照らして見るとなかくおもしろいのです。迷信と思はれてゐるものにも仲々眞實があります。次に私が信州で集めたコトワザを少しお目にかけます。

(イ) 豆の皮をむいて食ふと追はぎに會ふ。(嫁に行くとき裸で行く)、(着物がきられぬ)、(貧乏になる)

これはゼイタクをいませめたものでありませうが、無双原理正食法から見ても、まことに正

しいではありませんか。不自然な食べ方ですから病氣をするでせう、そして貧乏になるでせう。年中追はぎに會つてゐる様なもの。

(ロ) ナスを食ふと毛がぬける。

これはもう説明するまでもなく御存じのこと。

(ハ) 馬鹿の大食ひ、馬鹿の三杯汁

これもおさいの過ぎるのをいませめるもので正しいです。

(ニ) ホーヅキを植ゑると病人が出来る(子が育たぬ)

(ホ) 家のまわりにクルミをうゑるものでない。

(ヘ) ブドヴの木をうゑてをく家は運がわるい。

以上三つは皆陰性が強すぎるからです。

(ト) 妊娠中生姜を好むと六本指の子が出来る。

これは實に正しい。生姜は陰性過多です。くだものを食べすぎて六本指を生む人がこの頃東京にチヨイ／＼あります。

(チ) 産後には餅を食へ。スツパイもの食ふな。イモ類は禁物。

これもまことに正しいことで決して迷信ではありません。食養を知つてゐる人はみなお分りです。

(リ) 明るい家には金がたまらぬ(病人がたえぬ)

一日、野に出て陽性の日光に親しむ人は達者です。昔はそんな人々ばかりでした。だから夜歸る家は暗い方がよかつたのです。陰性が必要だつたのです。

九州では「タビをはいてねると親の死目に會へぬ」と云ふさうです。これも正しいではありませんか。タビやクツ下をはいてねる人は寒がり、陰性で、甘黨かクダモノ黨ですから早く死ぬ、親より先に死ぬでせう……。

五〇、桑の葉の分析——長野縣蠶業試験場の桑の生葉の分析表はおもしろいものです。これは桑の木の上から順に葉をとり、別々に分析したものです。ナトリウムや、マグネシウム、燐、加里などいろ／＼析出されてゐますが、上の方の葉ほど順に多い成分と反對に下の方になるほど少いものと二色あります。まるでワザと分量を計つて作つた様であります。陰陽の秩序

に至るところにハツキリ認められると云ふものです。Mg Na Clなどは下の方の葉ほど多く、K 燐酸などはハツキリ上の方の葉ほど多くなつてゐる(たゞCaだけは案外下の方の葉ほど多くなつてゐる。CaはNaよりは陰性であるが、KやPよりは陽性であるためか、もつと深い問題であるのか今の私には分りません)。

五一、眞理の海原と子供——『私のした事を世の中の人々は何と見るか知らないが、自分は海邊に遊ぶ子供に過ぎない。輝いた小石を見つけたり、美しい貝を見出したりしたゞけだ。眞理の海は究めつくされないで自分の前によこたわつてゐる。(ニュートン)』

ニュートンの如き大科學者でさへ、自分は全く何も知らないと云つてゐます。私共はあくまで謙遜でなくてはなりません。無双原理はこの眞理の大海原を乗り切る勇敢な舟乗の磁石、羅針盤であります。ウツカリすると人は方角をよみちがへたり、舵を取りちがへたりします。

五二、摩訶止觀の病原——止觀、第八、上、觀病患境別釋第二にある病原論(明起病因縁)には病氣の六つの原因が次の如くなつてゐます。

一、四大不順 (氣候風土の變調)

- 二、飲食不節 (邪食悪食過食等)
- 三、坐禪不調 (修行不足)
- 四、鬼神得便 (鬼神)
- 五、魔所爲 (悪魔)
- 六、業起 (悪業前世の宿業)

無双原理食養道から見ますと、いづれも第二の原因即ち食物であります。四大不順も平素から食養を正しくしてゐれば影響しません。坐禪が出来ないのも正しい食物を取らないからです。悪魔、鬼神、につけ入られるのも、身體を悪食で培養基にしてゐるからであります。又業、悪業、宿業は正しくない食物から作られるのです。

五三、クワイの葉のふしぎ——水の中に育つクワイは三種の葉をもつてゐます。水の中に出る細長いヒモの様なのと、水面に浮く丸いのと、空中に出る鉞型のトンガツタのと。つまりこれらの三いろの葉の形は陰性の水の中と陽性の日光の中と、その中間の水面上の陰陽接觸面とのチガイを示すものであります。これをビンに入れて育て日光中の葉だけ、トンガツタのだ

けを出させることが出来ます。おもしろいですから、やつてごらん下さい。

さて、ビンのクワイはポツ／＼長い芽を空中に出します。三四本出ると、いづれも長さ大きさが必ずちがつてゐます。そこで、一ばん高く上へのびた陰性の葉のトンガツタ尖端を三―五分ばかり、ちぎつてをくのです。すると翌日はもう、その葉とその莖全體の方向がかわつてゐます。下へ向き始めます。そして二、三日もするとスツカリ反對の方向すなはち下へ向いてゐます。そして、おしまひにはダラリと下へたれて了ひます。方向ばかりでなく色まで毎日々々かわつてゆきます。つまり陰性の部分を切りとられ、陽性の方が残されたために、形も方向も色もグン／＼陽性になつてゆくのであります。

五四、淺草の鯉寺——東京は淺草に鯉寺と云ふのがあつたさうです。そこには澤山鯉のゐる池がありました。大きな鯉がゐるさうです。そのお寺の坊さんが大きな鯉をとつて食べたところがスグ死んだと云ふハナシ。これはキツト心がけのワルイ坊さんが一匹池から取つて料理をしたのでせう。ところが餘り大きくて、一人で食べきれないほどあつたのでせう。それをお寺ですから近所の人々に分けてあけるワケにもゆかず、ムリに一人で食べたのでせう。多分おサシ

ミにして澤山たべたのでせう。二、三日も四、五日もかゝつて……。

鯉は陰性の動物でありますから、つねから陰性のヤサイを多くたべてゐた坊さんにはキツトこれは強すぎたのでせう。實際、鯉のアラヒを毎日の様に十五匁位づつ長年たべて糖尿病になつたある縣會議員を私は指導したことがありました。この人は決して甘い菓子を好まなかつた人であつたので私も始めはその原因をつきとめるのに苦心しました。その結果、つひに或る日鯉の恐るべき陰性を發見しました。

五四、ドイツ鯉——この頃の鯉は養殖が大部分であります。それは大抵ドイツ鯉であります。ドイツ鯉は日本のよりよほど陰性で、ウロコが大きいからすぐ分ります。それに早く大きくなります。二、三年もすると、日本の天然鯉の十年、十五年もたつた程の大きさになります。そして巾もひろく、丈も短かいです。これだけでも陰性だと云ふことがお分りです。ドイツやフランスでは鯉をあまり食べません。フランスで「鯉の様な人」と云ふのはバカと云ふことを意味するくらひです。キツト、ビタミンCの様な陰性の成分を多分にもつてゐるのでせう。

ドイツはさすがに科學の國です。敬服します。平素から資源局で鯉のビタミンの測定までやつてゐます。そしてそれも年齢別にしてゐるさうです。これを無双原理で使ひ分けたらすばらしいものだらうと思ひます……。

五六、天井からゼンソク——米材でたてた家、天井に米杉をもちひた家にすむとゼンソクになる人があります。もちろん陰性の人であります。米國オークランドの様な陰性土地の杉を澤山用ひた家にすみ、ことに天井を米杉で張つた様な寢室で寝て一晩中、そして毎晩、長年その匂を吸つたらゼンソクばかりでなく、いろんな陰性の病氣にかゝることです。無双原理を知らないトンデモないバカを見ます。

五六、口の中の電氣分解——水の中に二種の金属を入れると電氣が起ります。蓄電池はこれを應用したものであります。口の中にはつねに水分があります。そこへ入れ歯として金や銀や、アマルガムや、白金などを入れるとキツト電氣が起ります。そして長年の間には痛の様な病氣を唇や舌やノドに起す原因となるのでせう。おしろいを顔に長年つける人は齒がわるくなると云はれます。おしろいには鉛と云ふ金属がふくまれてゐるからです。

銅や水銀や、黄リンなどを常に扱ふ人々もみな齒を犯されるさうです。齒と云ふものは人體の中で一番強いモノでありますそれをヤラレル位ですから體の中は方々悪くなつてゐることでせう……。

五八、鍼のよくキク人——鍼の先生にきゝますとハリがピンとキク人と、きかない人があるさうです。そこで、キクのはドンな人か調べて見ますと、陽性の人々でした。だから一般的に云へば陰性の人々にはお灸の方がよいのです。ハリは陰性で、灸は陽性ですから。

五九、北へゆくほど大きくなるモノ——動物は陽性ですから、大體北の陰性地方へゆくほど大きくなります。牛やブタはその一例です。反對に南へゆくほど小さくなります。カラスも南へゆく程小さくなります。コロンボのカラスは小さいので、日本のカラスしか知らない人は驚きます。台湾のブタも小さくて黒いので、犬かとまちがへるほどです。もちろん人間の飼つてゐる動物はそのエサによつて或る程度は自由になります……。

形ばかりでなく色も變ります。形よりも色の方が變りやすい様です。牛や馬や熊や兎やブタなどはよい例です。

植物でも陽性のモノは北へゆくほど大きくなり、色も赤くなります。カボチャはいゝ見本です。北國へゆくと大きさ一かゝえもある様な赤い赤いカボチャがあります。おいしいです。

櫻は陽性の木です。だから陰性の處へゆくほど大きくなり、花も大きくなります。北海道の櫻はその例です。大きくなるばかりでなく實までつける様になります。「處かわれば品かわる」とはよくも云つたものです。

六〇、國尻島の冬ごもり——寒い國尻島で冬を雪に埋れて越す人々が、或る年、食糧が不足して、コブを澤山たべました。百五六十尺もある陰性の長いコブばかり……それで春になつて迎への船が来たとき四百人もの人々が皆腰がぬけて立てなかつたことがありました。

國尻島で唯一のヤサイはフキださうです。フキの不調法漬と云ふのがあります。毎日海水をとりかへる漬け方です。

六一、カラフトの人々の食物——カラフトの北の方の人々はアザラシの肉を澤山たべるさうですが、それでも極陰性の地方ですから陽性食過多にはならない様です。それに、生の肉も澤山たべるさうです。こうしてビタミンCなどを欠かさない様にするのでせう。賢いものでは

ありませんか。

むすび

この本にかいた様な、「處かわれば品かわる」の面白いお話は、只今私の手許には集められてゐるだけでも數百頁の本になるほどあります。またそのうちお話しませう。

たゞおことわりしてをきたいことは、まだ此の研究が私一人で、僅か二十年ほどの間に、その上、片手間に集められたゞけであります爲に材料が十分でないこと、そして陰陽の見方も或は私の未熟な研究のために間違つてゐるかもしれないこと、しかし、それにも拘らず、こんな風に陰と陽の二つの對立を至る處に見出し、さらにその相補、親和性を見つけてゆくと云ふ無双原理世界觀は大へん實際的で便利で、具體的であると云ふことです。

科學なども無意識にこんな現象——對立、對抗——を至る處に見出してゐます。(たとへば酸性とアルカリ性の如き、空間と時間の如き、物質と精神の如き)——が然し、それらの本來同一性現在差別性の法則をまだ知らないのです。だから西洋科學が無双原理を取り入れたら、

それこそ西洋科學の方が東洋の學道よりもリツバナスバラシイものになるでせう。(私は十數年間西洋に於いて無双原理を説き廻つた經驗から斷言することが出来ます。)實際、科學に於ても量と質の相關、互通、變化を、もう十二分にあらゆる分野で認めてゐるのです。相對性原理などもその産物です。私は日本人がこの無双原理を認めようとしなない態度を非常に悲しく思ひますが、ドーモこれは西洋人の方に早く理解され、把握され、吸收され、體得される様です。それはドーシテも西洋の學者の方が私を引きつける力が強いし、數千年来これを求め、これに飢えてゐる人々がこれを發見する方が、數千年前にこれを獲得して以來ふんだんに用ひ、これにスツカリ馴れ尊敬の念を失つた人々がこれを再發見するよりも、早いのは自然の數です、これも無双原理の教へるところです。

無双原理研究所

目的

正しく清き生活をうち建て世のため、人の爲め、長く譲らざる社會奉仕生活をなさんとする人々に、新世界觀「無双原理」の普及につとめんとす

事業

無双原理指導員の養成、食養健全生活の指導、無双農場の經營、パンフレットの發行等

會員

會員（無双講中）は終身制です。加盟金拾圓を納付すれば機關誌「むすび」の配布を受けたり純正食品や出版物の頒布を受けることが出来ます。

昭和十六年二月二十日 印刷
昭和十六年三月一日 發行

（三〇〇〇部）

【定價三十錢】

不許複製

著者

滋賀縣大津市神出眞町平二番地
櫻澤 如一

發行者

京都市柳馬場三條下ル
奥井金治郎

印刷人

京都市伏見區樹形町巽六番地
福本久造

印刷所

京都市伏見區樹形町巽六番地
文明舎印刷所

發行所

滋賀縣大津市神出眞町平二番地
無双原理研究所
電話 京都一九三三六番
電話 大津一五四二番

無双原理研究の參考書

櫻澤所長著作の一部

一般向き

- 正しい食物について 一・一〇
- 新食養療法 一・五〇
- 病氣の治る食物 一・四〇
- 食物療法道しるべ 二・二〇
- 身土不二の原則 二・八〇
- 食養戦線 二・八〇
- 人生食養讀本 四・〇〇
- 正しいおやつ の作り方 一・〇〇
- 病人食の作り方 一・〇〇
- 食養滿洲讀本 六・五〇
- 滿洲の厚生運動 二・二〇
- 大逆反、正しい食物の作り方 二・〇〇

指導者向き

- 戦争に勝つ食物 一・三〇
- カレル博士「人間」文部省推薦 一・六〇
- 自然醫學としての神道 一・二〇
- 日本精神の生理學 二・八〇
- アランヂイ博士「西洋醫學の新傾向」 一・八〇
- 無双原理「易」 一・〇〇
- 健康の六大條件（久野工學博士共著） 一・六〇
- 隨筆・食物の倫理 一・六〇
- 人間の榮養學及び醫學 一・六〇
- 「血と土」（ナチスダレ農相著） 二・五〇
- （佛文）東洋醫學 五・〇〇
- 同 花の本 七・〇〇
- 同 無双原理 三・五〇

414

456

無双原理の研究叢書 第一期二十篇各三〇銭

第一篇 宇宙の秩序

永遠なるものゝ姿

無双原理の研究は宇宙の秩序の研究から始まります。おもしろい「魔法の眼鏡」を少年少女の無双原理世界観讀本としますと、この叢書は大人のための「魔法の眼鏡」であります。これは新しい創世紀であります。宇宙の秩序、組み立ては神の設計であり、人間の秩序は萬事教育でも、政治でも、農業、経済は申すに及ばず

商業、工業、宗教、學術等一切はこの秩序に法らねばなりません。

第三篇 人間の秩序

第二「食養人生讀本」

人間の秩序は宇宙に法らねばなりません。これはナチス、ドイツ教育參與省ゲオルグ、ウザノデル氏の「ナチスの論理」を無双原理世界観で解説し、展開せしめたもので、正に第二の食「養人生讀本」であります。

終